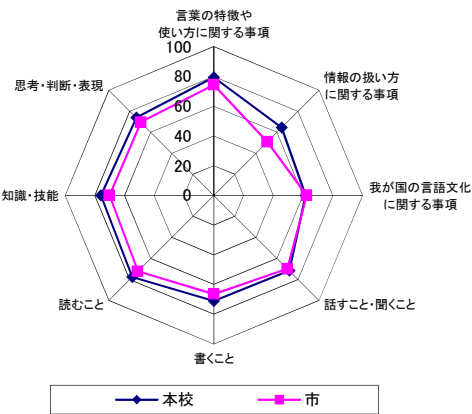


宇都宮市立陽東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.3	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	64.4	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	61.6	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	71.7	69.9	69.7
	書くこと	71.0	66.4	64.6
	読むこと	77.6	72.3	71.0
観点別	知識・技能	75.9	70.1	70.0
	思考・判断・表現	73.8	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

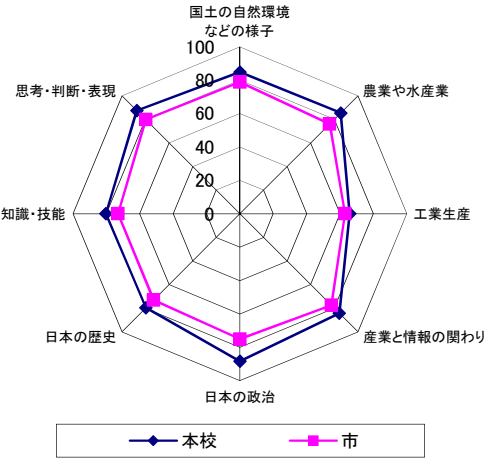
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	○市の正答率を5ポイント上回っている。特に6学年配当の漢字の正答率は、平均97.7%と高い。 ●文脈に沿った漢字を適切に使う問題では、市の正答率36.7%は上回っているものの、47.9%と低い。同様に、尊敬語の使い方に関する問題では、市の正答率46.2%は上回っているものの、49.3%と低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字や熟語については、プリントやドリルなどを用いた繰り返し学習を行うとともに、文章の中で適切な漢字を使えるように習熟を図る。 ・尊敬語や謙譲語については、知識として得たものを日常的に使えるような指導を心掛ける。
情報の扱い方 に関する事項	○市の正答率を13.5ポイント上回っている。 ○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題は、市の平均より9.7ポイント上回っている。 ○●目的に応じて文章を書く問題は、17.3ポイント上回っているが、本校平均43.8%、市の平均26.5%と正答率自体は低い。	・資料の活用に加え、読む力をつける必要がある。他教科とも関連付けて、指導していく。 ・複数の情報から、課題解決に必要なものを、抽出したりつなげたりして、自分の考えをまとめる指導を随時行っていく。
我が国の言語文化 に関する事項	○漢字の由来の問題は、市の平均とほぼ同じである。	・新出漢字を学ぶ際に、辞書を使って漢字の由来や部首、部分ごとの意味や音についても学ばせていく。
話すこと・聞くこと	○市の正答率を1.8ポイント上回っている。特に、話し手の目的に応じた話の内容を捉える問題では、正答率が100%であった。 ●互いの立場や意図を明確にしながらい計画的に話し合う問題では、市の正答率を7.6ポイント下回る結果となった。	・国語の時間以外にも、グループや全体での話し合い活動の機会を積極的に設ける。また、自分の立場を明確にしたり、友達の意見を聞いて自分の考えを発表したりするような活動や討論会等を充実させる。
書くこと	○市の正答率を4.6ポイント上回っている。表やグラフを用いて考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の正答率は3.7ポイント、情報と情報の関係について目的に応じて文章を書く問題の正答率は17.3ポイントと、市の正答率を大きく上回っている。 ○グラフから読み取った事実を書く問題の正答率は5.2ポイント、事実を基に自分の意見を明確に書く問題は5.6ポイント市の平均より上回っている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題は、市の平均を3.4ポイント下回った。	・普段の生活において、理由を明確にして自分の考えを話すことを意識付け、自分の考えとその理由を、指定に沿って書くことにつなげるように指導していく。 ・学校課題の研究で行ってきた「読みを深めるために書く」活動を引き続き行っていく。 ・段落の概念など、文章を書くためのルールを随時指導していく。
読むこと	○市の正答率を5.3ポイント上回っている。特に物語の内容を読み取る問題では、市の正答率を13ポイントと大きく上回っている。 ○説明文の全体の構成を捉える問題は、市の正答率を11.2ポイントと大きく上回っている。 ●物語文を読んで、描写を基に登場人物の心情について読み取る問題は、市の正答率を4.4ポイント下回った。	・物語文では、文章をよく読み、叙述をもとにした読み取りを継続して指導していく。 ・行動や情景の描写から、登場人物の心情を読み取るように指導していく。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	84.9	78.9	75.4
	農業や水産業	85.4	76.1	71.2
	工業生産	65.8	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	84.2	77.6	59.7
	日本の政治	88.4	75.0	79.3
	日本の歴史	79.6	73.1	72.8
観点別	知識・技能	80.4	73.0	71.4
	思考・判断・表現	87.3	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

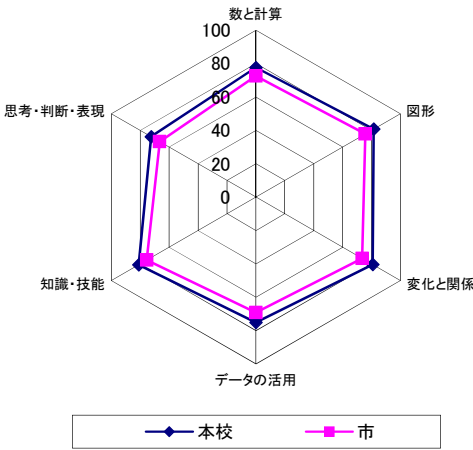
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○市の正答率をポイントを6.0ポイント上回っている。特に、「日本の周辺の海洋名について理解する」問題においては、95.9%と市の平均よりも8.6ポイントも上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳や資料集をいつでも見られるような状態にし、社会科の授業以外でも、話題になったら、すぐに開けるようにしておく。地形に関しては、プリントを活用しながら覚えられるようにする。国旗などを覚えさせる時は、自主学習に進んで取り組ませるようにし、知識を増やしていくようにする。
農業や水産業	○市の正答率を9.3ポイント上回っている。特に、「都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取る」問題においては、79.5%だが、市の平均よりも17.8ポイントも上回っている。	・身近なニュースから農業や水産業に興味をもたせ、朝の会等でも、話題にする。食料生産に関しては、給食の時間や家庭科の授業とも関連させて、自分との結びつきを強く意識付けていきたい。また、自分の考えと友達の考えを比べる機会を設け、比較させていきたい。
工業生産	●市の正答率を2.9ポイント上回っているが、領域別では、一番低い。特に、「大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取る」問題においては、54.8%と市の平均とほぼ同じである。	・身の回りの物のほとんどが、工業製品だということを意識させ、児童が自分の生活との関わりをイメージできるように指導を工夫していきたい。特に、ここ数年社会科見学ができていないので、その分、工業に関する動画を見せたり、写真を見せたりすることを継続していく。
産業と情報の関わり	○市の正答率を6.6ポイント上回っている。特に、「コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現する」問題においては、82.2%と市の平均よりも16.0ポイントも上回っている。	・現在、一人一台タブレット端末があり、社会科の授業以外にも情報に関する学習は行っているため、良い点と悪い点を明確にし、実際の生活と結び付けて考えさせ、情報選択能力を高めていきたい。
日本の政治	○市の正答率を13.4ポイントも上回っている。特に、「日本国憲法の三原則について理解する」問題においては、90.4%の正答率を示しており、市の平均より21.0ポイントとかなり上回っている。	・毎日ニュース番組を見たり、新聞を読んだりする習慣をつけたい。また、国会開催中は、一緒にテレビ中継を見たり、修学旅行で、国会議事堂見学をしたりと政治に触れる機会を意図的に作っていきたい。
日本の歴史	○市の正答率を6.5ポイント上回っている。特に、「織田信長の勢力拡大について、資料をもとに判断する」問題においては95.9%と高く、市の平均よりも4.2ポイント上回っている。	・年表の掲示方法を工夫し、いつでも見えるところに張っておく。図書館を有効利用し、歴史上の人物だけでなく、歴史的事項も結びつけるように指導していく。新聞もタブレット端末を利用しながら、作成させたい。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.7	72.6	73.1
	図形	81.5	75.7	74.7
	変化と関係	80.8	73.6	66.1
	データの活用	75.1	69.2	70.7
観点別	知識・技能	81.1	75.5	74.4
	思考・判断・表現	72.5	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

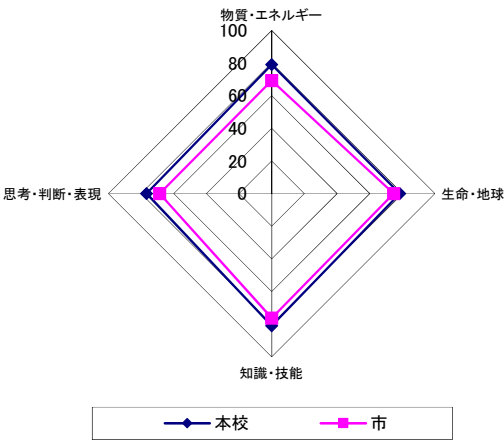
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○テープ図から式にする問題では、市の正答率を約9ポイントと大きく上回っている。 ○1より小さい分数をかける乗法の場面について、数量の関係を数直線に表す問題では、市の平均を12.2ポイント上回った。 ●小数×小数の計算問題では、市の平均を2.8ポイント下回った。	・小数点の移動や分数の通分・約分など、基礎的な内容を復習する機会を設け、計算を速く正確にできるよう指導していく。 ・機械的に解くのではなく、数の量感をイメージしながら問題に取りかかると、非常識なミスは減ると考えられる。日常的に使う数量と関連付けながら、指導していく。
図形	○合同な三角形を作図する問題では、正答率が95.9%であり、市の正答率を大きく上回った。 ○三角形の外角を求める問題では、市の正答率を10ポイント以上上回った。	・定規やコンパスなどの道具を正しく使うことができていると考えられる。引き続き、それらの道具を初めて使う時や、久しぶりに使う時に、再度使い方を細かく指導していくことが必要である。
変化と関係	○分速を秒速や時速に直す問題では、市の正答率を15ポイント以上上回った。	・低学年で学習した「時間」の基礎が充実している成果だと考えられる。今後も各学年で身に付けさせるべき基礎・基本を確実に定着させるよう、丁寧な指導を心掛ける。
データの活用	○円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求める問題では、市の正答率を10ポイント以上上回った。 ○平均を求める問題では、市の正答率を大きく上回った。	・グラフの読み取りがよくできているので、引き続きグラフの見方を丁寧に指導していく。 ・「データの活用」では、最頻値や中央値などの意味をとらえることができるよう指導する。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	79.0	69.3	65.7
	生命・地球	78.5	74.7	77.8
観点別	知識・技能	81.0	76.2	76.4
	思考・判断・表現	76.6	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○ふりこのきまりの内容では、ふりこのふれはばとふりこの1往復する時間の関係を調べる実験を計画する問題で、国や市の正答率を20ポイント近く上回り、よく理解できていた。 ○電流のはたらきの内容では、国や市の正答率を15ポイント近く上回るものもあり、よく理解できていた。 ●物の燃え方の内容では、ろうそくが消えた理由を説明する問題で、国の正答率を5ポイント下回った。	・実験等を通して、体験的に学習していく時間を、今後も充実させていきたい。 ・実験の結果や考察を自分の言葉でまとめる力を高められるよう、書き方の指導に重点を置き、記述力の更なる向上を図っていく。
生命・地球	○植物のつくりとはたらきの内容では、市の平均正答率を9ポイント上回るものもあり、全体的に正答率が高かった。 ●動物のからだのつくりとはたらきの内容では、全国の正答率を下回っているものが、いくつか見られた。	・実験ができないところに関しては、動画を活用したり、モデルを使用したりするなどして対応し、視覚的に分かりやすくするなど、授業を工夫していきたい。